

明治24年創立、「国家・社会に有為な人材を育てる」を建学の精神に
高い学力と豊かな情操を育む中高一貫教育の男子進学校

海城中学校・高等学校(東京都)

宮田 恵子 先生

生徒の生活の実態として、「食生活の自立」は意外と進んでいる一方、最も遅れているのが「衣生活の自立」なのではないでしょうか。生きる力を養う教科として、基本技術習得の必要性を強く感じます。

「料理」や「食器洗い」の経験がある生徒はいるが、「衣服の補修」となると全く自立していないのが実態。

—— 貴校は中高一貫教育の男子校で、中学3年生では主に衣生活を学習されるということですが、その目的や意義についてお教えいただけますか。

■生徒の普通の生活についてアンケートをとると、食生活については「時には料理をする」「食器を洗う」という回答が見受けられるのですが、衣生活については「自分で洋服を買う」程度はあっても「ボタン付けや補修」「洗濯」「アイロン掛け」となるとほぼ親掛かりであることがわかります。衣生活における自立が最も遅れているんですね。この実態を踏まえ、中学の家庭科(中3のみ、週1時間)では、衣生活の自立を目指すことを最初に生徒に説明しています。高校(高1、週2時間)では食生活を中心に学びますので、中高一貫して学び終えた時に生活全般の自立ができる基礎を携えてもらえることを意識した組み立てになっています。

—— 1学期に「基礎縫い練習エプロン」、2学期に「アクリルたわし」で被服実習をされています。貴校は男子校で有数の進学校でもいらっしゃるということで、設備・時間の点などで難しい部分もあるのではないですか。

■中学で被服を学ぶということが決まったとき、男性の先生などから「ボタンのひとつくらいは自分で付けられるようにならない」という直接のご要望もあり、それなら座学よりも実践的な実習を、ということになりました。男女共修を機に家庭科が始まりましたので、正直なところ設備が整っている方ではないと思います。もともと被服室もなくミシンもありませんが、学習効果として実習に勝るものはありませんし、生徒も達成感を味わえて喜ぶますので、いろいろと工夫しながら実施しています。

時間のない中でも実習を行うために教材にも一工夫。「基礎縫いビデオ」や「仮縫い用接着テープ」を積極的に活用。

—— 「基礎縫い練習エプロン」をご採用の理由をお聞かせいただけますか。

■「基礎縫い技術の習得」が目的ですので、当初は小さい布にいろいろな縫い取りの練習をしていたのですが、あるとき生徒が「先生、これ縫ってどうするの?」と。「縫い方の練習よ」と答えていましたが、作った後に活用できる物である方が、物を無駄にしないという観点からも、生徒のやる気の間でも望ましいですね。しかしミシンもなく、時間も無い。男子ばかりで技術もない。そんな中でこの半縫製済みのエプロンの噂を耳にした同僚の先生から勧められたところがきっかけになりました。すべてを手縫いで、しかも1時間授業の6回で完成させるために、裾も縫製して納品して頂くようお願いし、ポケット付け・ひも付け・ボタン付けに基礎技術の要素を盛り込んで実施しています。



実習教材： 基礎縫い練習エプロン・手順ビデオ(P11掲載)
アクリルたわし(P13掲載)
実習学年： 中学3年生
実習時期： 5月～7月(エプロン)
実習時間： 約6時間 (1時間授業×6回:エプロン)

●ココがいい!

・半縫製済みでミシンがなくても実習できる。
・基礎縫いだけで実用的なエプロンが製作でき、失敗がない。

●指導のコツ

・ポケット口でまつり縫い、ポケット付けで半返し縫い、腰ひも付けで細かい並縫い(本来は本返し縫いだが二本取りの細かい並縫いでもしっかり付き、縫いやすいのでこの方法を採用)、首ひもでボタン付けを学ぶ。
・積極的で早い生徒は、縫い取りで本返し縫いを習得する。

—— 1時間授業ですと準備・片付けも入れると本当に時間が短いですね。

■失敗を少なくし、短時間で効率よく進行するように、と「基礎縫いビデオ」や糸通しや仮縫い用アイロン接着テープなどを積極的に活用しています。ポケット口でまつり縫い、ポケット付けは半返し縫い、腰ひもは糸を二本取りにして細かい並縫いでしっかり付け、肩ひもでボタン付けを習得していますが、早い生徒で5時間、遅くて6時間で仕上げます。やる気のある生徒はどんどん進めますので、時間が余ったら刺しゅう糸で本返し縫いを学びながらイニシャルなどを縫い取ったり、ワッペンを付けたりとアレンジをしていいことにしています。刺しゅうなど夢中になって取り組んでいますよ。こういうことが好きだと、意外な発見でした。



2学期は洗剤や環境配慮の学びを兼ねて「アクリルたわし」を製作。学びの要素が多く実用的な上に、楽しくできるので生徒に好評です。



—— 「アクリルたわし」の方はいかがですか?

■1学期のエプロン製作の後、夏休みは各自家庭で洗濯を体験してレポートを提出するという課題を出しています。その際、洗剤の表示についても意識させ、そこから環境学習へと発展させる中で「アクリルたわし」を製作しています。最初は「そんなに編むの〜?」なんて言っていますが、これも始めるとチャイムが鳴ってもなかなか止めないくらい夢中になりますね。友達同士で毛糸を交換して色を変えるなど創意工夫しています。牛乳パックをリサイクル利用して作るという点もいいですね。家庭科を学び終わった高校2・3年生の中に、「家庭科でいちばん思い出深かったのはアクリルたわし。これからもずっと続けるべきだよ!」などいってくれる生徒もいる程です。私も実際に自宅で3年くらい使っていますが、スポンジより耐久性があり、力が入りやすいので、浴槽洗いにも食器・鍋洗いにも使いやすくとても重宝しています。楽しく製作できて実用的、という点も魅力ですが、「1本の線が面になる」という被服の基本が凝縮された教材であるとも言えますね。

—— 関連性のある流れで学習することで、スムーズに生活スキル全般がしっかりと身に付くように授業を組み立てていらっしゃるんですね。

■バランスのよい社会生活を将来営んでいくためには、机に向かってする勉強だけでなく、自立できるだけの最低限の技術はやはり必要です。実際、ご家庭でも、身の回りのことを自分でできる生活技術の習得は必要と考えていらっしゃる保護者の方が多く、「ぜひ身に付けさせたい」というお声を多くお聞きします。生きる力を養う教科として、生徒の将来に本当に役立つ技術の習得や経験ができる場を提供していきたいと考えています。